国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」

草加まち歩きマップ

「せんべい・皮革・ゆかたのまち」

綾瀬川エリア

バードサンクチュアリ A-1

新栄町団地東側の綾瀬川右岸一帯は、野鳥の聖域です。野鳥の好む約40種類の木を植えた「鳥と友だち広場」が整備されています。

周辺では、カルガモ、コサギ、シラコバト、ハクセキレイなどの野鳥や美しい蝶なども観察できます。

綾瀬川沿道（あやせがわえんどう）

市の北部では西から流れ、その後南下する綾瀬川は、昭和30年代まではホタルが生息するきれいな川でした。近年の河川改修により川は一水辺は美しくよみがえり、流域は市民の散策の場となっています。

新田駅からバードサンクチュアリに続く綾瀬川沿いは、桜が咲き、お花見の名所となっています。 A-1～3

旭神社（あさひじんじゃ） A-3

氷川神社と呼ばれてきましたが、明治40年（1907）に社号を改めています。本殿は江戸中期のもので、市指定文化財の第第があるほか、境内には等身大170石石をはじめ数々の石造物があります。

また、鳥居にはウロを作った蛇がかけられ、毎年10月に蛇づくり（蛇ねじりともいいます）が行われます。

くわい田 A-2

草加の特産くわいは明治初期から本格的に栽培が始まり、昭和6年ごろまでは新田地区で栽培されています。6月下旬に植えつけられ11月下旬からは翌日にかけて収穫が行われます。

ウオーキングコース

コース1周 約7時間 約3時間

バードサンクチュアリ（鳥と友達広場）→ 天満宮 → 旭神社 → 綾瀬川ヘルシーロード → 新田駅

ウオーキングアドバイス

疲れたら、無理せず休憩をとりましょう。

柿木・そうか公園エリア

東武スカイツリーライン 新田駅東口より 東武バス新川乗車 12分「そうか公園下車」
獨協大学前（草加松原）駅東口より ハリボくんバス乗車 14分「そうか公園下車」

東漸院（とうぜんいん） A-5

室町時代（西暦1500年頃）に、定徹によって創建されたと伝える市内最古の寺です。市指定文化財の山門は天明2年（1782）の建立といわれ、山門の左手の鐘楼堂には高野山の木食僧・恵昌の作と伝わる薬師如来像が安置されています。

そうか公園（そうかこうえん） A-5

総面積17.8haの広大な河川敷には、潤沢沼、せせらぎのある回遊の蒲を市民の森、遊歩道、多目的広場、テニスコート、野鳥や水鳥の集まる葦望地などがあります。約300種、2万5000本の木々と樹木、草花等があり、野鳥や昆虫を観察できる自然の宝庫です。公園西側の八潮用水沿いにある桜並木は市内の桜の名所の一つとなっています。

女体神社（にょたいじんじゃ） A-5

筑波山の女体神社を信仰していた下総国川越の城主奥川氏が、落城後植木を安住の地と定め、筑波山に向けて祀られたといわれる神社です。また、雅子の作家・豊田三郎の文学碑もあります。

ウオーキングコース

コース1周 約5時間 約2時間

そうか公園 → 東漸院 → 下妻街道跡 → 女体神社 → そうか公園

ウオーキングアドバイス

帽子を着用し、熱中症に気をつけましょう。

※イラストマップのためデフォルメしてあります。

谷塚エリア

辰井川10橋（たついがわじゅっきょう） C-D-2

辰井川は昭和56年から6年間をかけて整備された川です。川にかかる橋には、「わたる」という橋渡の様に、「ながめる」「ふれあう」「ほこる」という要素を入れ込られ、地域の歴史や周辺の自然と調和する個性的なデザインがほどこされています。

そのうちの6橋は「緑豊かな水辺」「明治は国土交通省」の「手づくり郷土賞・ふるさとが誇りとする情景門」を受賞しました。

浅間神社（せんげんじんじゃ） D-3

江戸時代から富士山を祀る神社として厚い信仰を集め、多くの人に親しまれています。正式名称は浅間神社。

現在の本殿は天保13年（1842）に再建されたもので、市指定文化財となっています。毎年7月の第一土・日曜日には祭礼・祭礼が行われます。

むじなの森跡（むじなのもりあと） D-1

昔、むじなが住んでいたといわれる新里町の田家の山一帯は、多くの大木があり、村人から「むじなの森」と呼ばれていました。その树歴数に今もムジナがいた大木が残されています。

毛長神社（けなががみじんじゃ） D-1

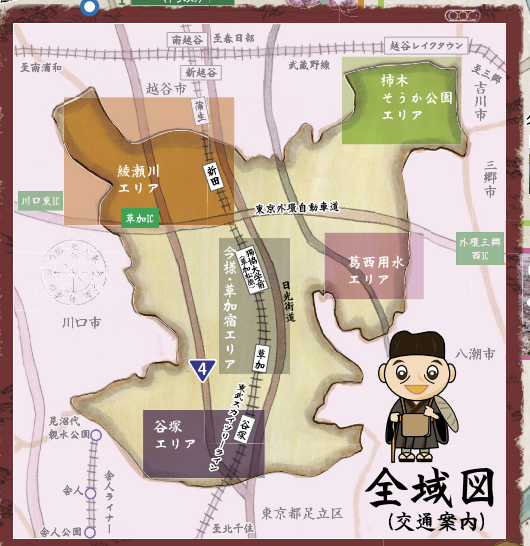
創建は不詳ですが、ご神体は「女性の髪の毛」を祀る珍しい神社で、享保10年（1725）9月25日に社殿修繕の記録があります。

伝承によれば、村の長者の娘宗姫ともいわれ、髪の主はその娘（因幡は遠藤為母の娘説）といわれています。当時は女子殿川家の江戸屋敷から修説したものです。

ウオーキングコース

コース1周 約7時間 約3時間

谷塚駅 → 毛長神社 → 泉蔵院 → むじなの森跡 → 辰井川橋めぐり → 谷塚駅



全域図（交通案内）

葛西用水エリア

東武スカイツリーライン 草加駅東口より
東武バス草加駅乗車7分 稲荷三丁目下車

ウオーキングコース

コース1周 約2時間 約1時間

稲荷神社 → 慈尊院 → 稲荷西公園 → 稲荷中央通り → 稲荷東公園 → 稲荷三丁目

桜スポット

草加市内にはお花見に絶通な場所がたくさんあります。葛西用水桜並木とそうか公園では、例年、桜の時期（4月頃）に桜並木観賞会が行われ多くの人でにぎわいます。

（主催：草加市観光協会）

- 新栄町団地綾瀬川沿い
- 伝右川沿い半分橋付近
- 東京外環自動車道（国道298号）
- 谷古田川水沿い
- 札場河岸公園
- そうか公園
- 毛長川沿い花畑大橋付近
- 金明町綾瀬川沿い

葛西用水（かさいようすい） C-D-3

享保4年（1719）、埼玉県東部の水田灌漑のために造られた用水路です。行田市の利根大堰から足立区に続いており、市内では内郭から市街の約3.5kmを流れます。かつては水田を潤していましたが、都市化により、今では市民の憩いの水路として親しまれています。葛飾区近は1.5kmにわたり約400本のソメイヨシノが並ぶ綾瀬川沿道では桜の名所となっています。

元禄2年（1689）3月27日、46歳の松尾芭蕉は、門人の河合曾良を伴い、江戸深川を旅立ちました。後に日本を代表する紀行文『おくのほそ道』として結実するこの旅は、江戸、白河関から松島、平泉、象潟、出羽峠、金沢、敦賀など、東北・北陸の約600里（2400km）、150日間の壮大なものでした。

「月日は百代の過客にして、行きかう年も又旅人也。舟の上に生涯を浮かべ馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。」

深川を出た芭蕉は千住曙までご存じ、そこで「草鞋の人々に別れを告げて歩み始めます。

「百年で朽ちるとは定なき命の末なれば、其百年の内を云曾にたどり初て行べし」

こうして芭蕉は、同行かける河合の重さに苦しみながら2里8丁（8.8km）を歩き、日光街道第2の宿駅だった草加にたどり着きました。『おくのほそ道』の旅は、このあと、草加から東北へと拡がっていくことになるのです。

制作発行：草加市
協力：草加市観光協会
草加宿案内人の会
〒340-8550
埼玉県草加市高砂1-1-1
TEL 048-922-0151（代表）
令和5年9月

リサイクル適性Ⓐ
この冊子は、印刷時の軽くリサイクルできます。
再生紙を使用しています。
環境にやさしいベジタブルインクを使用しています。